









第4897・98号

(第三種郵便物認可)

教 团 新 報

2019年3月2日

(4)



東北学院の三校祖。左から、押川方義(初代院長 1850-1928)、W・E・ホーイ(初代副院長 1858-1927)、D・B・シュニーダー(二代院長 1857-1938)

鎖国とキリスト教禁令政策によって2世紀半に亘り日本を統治した徳川幕府の時代は、ペリー総督の率いるアメリカの軍艦の来日によって終わりを告げた。新たに登場した明治政府が1873年にキリスト教禁令の高札を撤廃すると、米国を中心とした国々からの宣教師たちが日本各地で公に福音伝道を開始した。各地にできた伝道の拠点には、志のある日本の若者たちが集まつた。

その中でも、早くから外国と交渉が行われた横浜は、後に横浜バンドと呼ばれる主要な伝道拠点が出来、ここに押川方義という松山藩出身の英学を志す若者がいた。彼は22歳で洗礼を受けてキリスト者となり、伝道者を志し、まだ伝道が手薄な東北地方へ向かい、仙台を中心に布教活動を開始した。

一方、次々と来日する宣教師たちの中でも、米国のドイツ改革派教会から派遣された宣教師 W・E・ホーイは、キリスト教伝道と学校設立を目的として仙台に赴き、押川と共に1886年に牧師を養成する仙台神学校を設立した。同年、女子教育にも着手し、宮城女学校(現宮城学院)を設立した。

◆

ここで W・E・ホーイについて触

れておこう。米国ペンシルベニア州で1858年に生まれ、フランクリン・アンド・マーシャル大学を、続いてランカスター神学校を卒業して宣教師を志し、1885年にドイツ改革派教会より日本に派遣される。来日して翌年には、押川と共同で仙台神学校を設立し、統いて同教会から D・B・シュニーダーが来日して3人体制となり、仙台神学校と宮城女学校の教育をさらに強力に推し進めた。

ホーイは、広範な伝道活動を続け、1893年には隔月号の英文誌『Japan Evangelist』を創刊した。1898年に喘息の療養のために中国の上海へ行ったことがきっかけとなり、1900年に日本での活動を辞して、中国伝道へ赴いた。清国の湖南地方で25年間活動し、神学校、青年教育の向上、教会設立、医療活動事業とめざましい働きをなした。しかし、1927年の中国内部の動乱から避難して帰國する船上で、宣教に生涯を捧げた69年間の幕を閉じた。

◆

さて、仙台神学校は、押川を院長とし、ホーイを副院長として、6名の学生で出発したが、翌年シュニーダーが加わり、徐々に学生数を増やし、6年後の1891年には「東北学院」と改称し、神学部以外にも、中等部、

高等部を設置し、次々と教育制度を整え、学校体制を整えた。同年には南町通りに、「赤レンガ校舎」と親しまれる洋風の煉瓦造りの校舎が完成した。内部には、ドイツ改革派教会の外國伝道局財務R・ケルカーの名に因む図書室も設けられた。後に詩人・文学者として著名になる島崎藤村が作文の教師として赴任したのもこの頃である。

押川は伝道活動を広げ、各地へと赴き、1891年に院長を辞して、シュニーダーに学校教育を託した。シュニーダーが第2代院長として就任し、さらに、ホーイが1900年に中国伝道へ向かうと、シュニーダーは、さらに35年間東北学院に在職し、東北学院を私塾的な教育機関からキリスト教主義教育機関に育て上げた。今日では12,000人の学生を有する幼稚教育から大学院教育まで行う、私立では、東北唯一の学生数をもつキリスト教学校となっている。

◆

D・B・シュニーダーの生涯について触れておこう。シュニーダーは、ホーイよりも1年早くペンシルベニア州に生まれ、教育も同じく、フランクリン・アンド・マーシャル大学を、続いてランカスター神学校を卒業したが、4年間牧師として働いた後、妻と共に宣教師として日本に赴いた。1887年に来仙し、前年に開校

した仙台神学校の教育に押川、ホーイらと携わった。シュニーダーは、2人が去った後に、幾多の試練を克服し、東北学院の発展に尽力した。

その中でも最大の試練は、新校舎や寄宿舎が完成した後、1919年に起きた仙台大火であった。仙台は空前の大炎に襲われ、東北学院の諸施設も焼失し、すべての努力が消え去るほどの悲嘆の中に置かれたが、シュニーダー院長は、自ら先頭に立って再建に奔走した。その結果、学内外の広い募金活動を得て、3年後の1922(大正11)年には新校舎が完成了。正面には「LIFE LIGHT LOVE」の3語が刻まれ、これは3L精神と呼ばれ、その後の学院の建学の精神として親しまれることになった。

シュニーダー夫妻は、滞日50年間に7回帰米し、日米間の国際親善、および学院の教育施設拡充のための資金募集に尽力した。さらに院長は、学院のキリスト教教育のために学校教会設立の必要を痛感していたが、ラーハウザー女史から得た5万ドルの献金を基に、南六軒丁に礼拝堂を建設した。

この礼拝堂は、2011年の東日本大震災にも耐え、今日もラーハウザー記念礼拝堂として毎日の大学礼拝で用いられている。

(Kyodan Newsletterより)

## 宣教師からの声

### 日本初期における宣教師の働き

～仙台神学校(東北学院大学の前身)を設立した米国ドイツ改革派教会の宣教師たち～

野村 信

(東北学院大学宗教部長・文学部教授)

新しく教団の役についたことを知った北海教区の信徒の方々が、「大変ですね」と声をかけてくれる。教団の事情に関心のある方々から、「教団はどうしてこんなふうな教会の交わりがある」と尋ねられる。「北海教区の金体としては正しいのも一因だと思いますよ」と答えたが、あまり尋ねられない様子だった。1月毎年恒例の北海教区の年頭修養会に、子どもたちが集まった。北海教区の全礼拝

出席者数の約2割にあたる。泊二日目の集会に厳寒の北海道各地から時間とお金をかけて集まり、会場のあちこちで「一年ぶり夫だけはまだ洗礼を受けない」と「元気だった?」とあります。夫は肺癌を患い日増

しつが行き交う。北海教区の七つの地区が持ち回りで実行委員会を担当し、もう数十年になる。何年前の年頭修養会で、クイズコーナーの企画があった。北海教区の諸教会にかかる樂

### 厚い交わり

（教団総会副議長 久世そらち）

小夜子さんは、1926年に上海で生まれ、その後、青島に移り生活をしていたときに、母親を病氣で亡くしたことから人生が大きく変わった。女学校に行くことが出来た。女学校に行くことが出来なくなり、19歳の時に家族のために秋の夫の所に嫁いで来た。家業の米屋ではオートバイで重い米を配達した。大変きつい仕事だった。

夫が病氣を患い長い闘病生活を送ることになり、男の子を一度も抱くことがなかった。どうすることも出来なかつた。どうすることも出来なかつた。夫が病氣を患い長い闘病生活を送ることになり、男の子を一度も抱くことがなかった。夫が病氣を患い長い闘病生活を送ることになり、男の子を一度も抱くことがなかった。

そんな折、キリスト者となつた娘からイエス・キリストの福音を聞くようになった。夢の中でイエスさまが現れ、その手には丸々とした男の赤ちゃんが抱かれていて、自分の腕に抱かせてくださった。その子どもの重みとあどけない顔を一生忘れられない」という。イエスさまが自分の長い苦しみをわかつてください。罪を赦してください。その2ヶ月後のイースターの時に秋教会で洗礼を受けた。娘二人は受洗しているが、夫だけはまだ洗礼を受けない。夫は肺癌を患い日増

八ととき

阿川小夜子さん

### くすしき恵み



1998年秋教会にて受洗。家族皆クリスチヤンで、孫の一人が伝道者となる。